



己斐上中学校 KUデザイン



※「KUデザイン」の「KU」は「己斐上中学校」を表すと同時に「基礎学力の定着」と「学びのユニバーサルデザイン」を表しています。

1 見通しを持たせる工夫



- ① 時間どおりに始めて、時間どおりに終わる。
(見通し、心理的安定)
- ② 授業の「めあて」を示す。
(見通し、心理的安定、目的理解)
- ③ 授業の「流れ・スケジュール」を示す。
(見通し、心理的安定、目的理解)
- ④ 授業の流れをパターン化する。
(見通し、心理的安定)



3 視覚的な情報提示の工夫



- ① 黒板の周りには必要な掲示物だけを貼る。
(注意の選択・集中)
- ② 黒板には必要なことだけを書く。
(注意の選択・集中)
- ③ 板書等に視覚的な手がかりを用いる。
(注意の選択・集中)
【例：色を変える 囲む マグネットシート等の視覚的な支援】
- ④ 黒板を分割して使う。
(注意の選択・集中)



2 指示・説明・発問の工夫



- ① 意見や質問は挙手をし、許可を得てから話をさせる。
(授業のルールの確立)
- ② 注目させて、私語や作業を止めさせてから、指示を出す。
(注意の選択・集中)
- ③ 指示を出した後は、理解したかどうか全体の様子を確認する。(指示理解の把握)
- ④ 理解・記憶を助ける指示を出す。
(短期記憶や予測、集中を助ける) ※下記を参



4 指導方法等の工夫



- ① 表現の仕方(話す・書く)のモデルを示す。
(表現方法を知る)
- ② 複数の感覚を活用する。
(見る、話す、聞く、書く、動く、操作する等)
- ③ 活動に変化を付ける。
(作業や動きを取り入れる等⇒注意の選択・集中)
- ④ 授業に複数の活動(内容・難易度)を取り入れる。
(注意の持続、一つは得意な活動を)



※④ 理解・記憶を助ける指示を出す。【例】

- 指示は一つずつ出す。(短期記憶を助ける)
- キーワードを書いて示す。(短期記憶を助ける)
- 話す前に事前に予告する。(予測・注意の集中を助ける)
例：「3つのことを話します」「〇〇について話します」
- 具体的な指示を出す。(指示理解を助ける) 例：ちょっと待つ⇒1分待つ



私たちはそれぞれ異なる認知特性をもっており、得意な分野や苦手な分野が個人個人違い、周囲の状況や環境等から大きな影響を受けます。視覚的な認知が優位な人、聴覚的な認知が優位な人、また、それぞれ興味・関心が違い、注意の集中等にも差があり、注意を集中させることのできる条件も違います。こうした視点から見てみると、生徒は様々な教育的ニーズを必要としており、その一人一人のニーズに応えるためには、生徒の実態から有効な支援を見直し、分かりやすい環境づくり・授業づくりを行う必要があります。認知特性において苦手な分野をもっていたり、注意の集中等に課題をもっていたりする生徒に対する支援(「ない」と困る支援)は、全ての生徒にとって「あると便利な支援」となります。このような支援は「学びのユニバーサルデザイン」と呼ばれており、この学びの支援を全校で、全教科で統一して行うことにより、生徒が学習の流れ、ルール、方法等を理解しやすくなり、全ての生徒がより授業に集中して取り組むことが可能になります。そして、その結果として「基礎学力の定着」も図ることができると考えています。

そのために、本校では上記の4つの項目について全校で取り組んでいきます。内容はすでに、本校では全校的に取り組んでいることや、個々で取り組んでいることが多く、当たり前といった内容も多いのですが、再確認という意味でも明文化して全校で取り組んでいくこととしました。